

目次

概要

[固定ある一定の時間以降に TANDBERG Codian MCU、IP GW、IP VCR、ISDN GW、TelePresence サーバ、VC、TCS またはエンドポイント 接続解除を予想に反して含む呼び出し](#)
[関連情報](#)

概要

この技術情報は Cisco TelePresence MCU 4203、Cisco TelePresence MCU MSE 8420、Cisco TelePresence IP VCR 2210、Cisco TelePresence VCR MSE 8220、Cisco TelePresence ISDN GW 3241、Cisco TelePresence ISDN GW MSE 8321、Cisco TelePresence IP GW 3510、Cisco TelePresence MCU 4505 および Cisco TelePresence MCU MSE 8510 製品に関連しています。

Q. 固定ある一定の時間以降に TANDBERG Codian MCU、IP GW、IP VCR、ISDN GW、TelePresence サーバ、VC、TCS またはエンドポイント 接続解除を予想に反して含む呼び出し

A. この FAQ は修正の下にあります

以下の製品は通話 時間制限を課しません:

- TANDBERG TelePresence サーバ
- TANDBERG Codian MCU
- TANDBERG Codian IP ゲートウェイ
- TANDBERG Codian IP VCR

TANDBERG Codian ISDN GW を含む多くの ISDN ゲートウェイは設定 > ISDN で見つけることができるコールで設定可能な最大時間を過します

TANDBERG VC および Tandberg Gatekeeper を含むほとんどのゲートキーパーは最大通話 時間を認めるために設定することができます。

コールをきちんと切断しユーザが損うときこれらの制限が故意ではないコストを防ぐことの値である間、いら立たしい切断問題を引き起こす場合があります。

さらに、多くのよくあるファイアウォールは通話 時間に制限をデフォルトで課します。組み合わせを誤まれたイーサネットポート設定により廃棄される呼び出しに終って高いパケットロスを、引き起こす場合があります。

ある程度の時間以降のある特定のエンドポイント常に接続解除に/からの呼び出しは、次を調査することが分れば:

1. コールに関連するゲートキーパーが課す期間制限。 エンドポイントおよびユニットは異なるゲートキーパーに登録できます; コールが IP アドレスによってダイヤルされても、E.164 数よりもむしろ、ゲートキーパーはまだ設定およびコールを中断 することに関連できます。
。
2. ファイアウォールによってネットワーク接続に適用される期間制限。 たとえば、Cisco PIX

Firewall はそれぞれが時間のタイムアウトによって続いた認識されたプロトコル名、分および秒のリスト形式タイムアウト conn 1:00:00 UDP (ユーザ・ データグラム・ プロトコル) 0:02:00 h225 1:00:00 h323 2:00:00(i.e の timeout コマンドがあるかもしれません)。 この例は H.323 接続に 2 時間制限を課します; ただし、それはまたまたビデオ コールに影響を与える他のプロトコルに制限を課します (UDP および H225)。 多くの異なったネットワークプロトコルは IP ビデオ コールに関連します。 それらの何れかに適用されたタイムアウトは中断される コールという結果に終る可能性があります。

3. タイムアウトは他のエンドポイントおよび MCU で-たとえば、Polycom MGC の MaxTimeInCall 設定適用しました。
4. 組み合わせを誤まれるイーサネット スイッチ ポート設定。 パターンが時そのあとで呼び出し接続解除へない、およびイベントログの接続解除の 原因が 'H.245 ネットワーク接続 Error が含まれているとき、にプラグインされること Codian 製品のイーサネットポート設定がスイッチのそれらを一致することは可能性のあるです。 **Codian 製品のイーサネットポート設定がスイッチでそれらを一致することは非常に重要です。** 設定が組み合わせを誤まれるとき、パケットロスは発生しパケットロスがある特定のレベルを超過するとき、MCU とエンドポイント間の呼び出しは廃棄することができます。 一方がオート ネゴシエーションのために設定される場合、反対側はオート ネゴシエーションのために設定 する必要があります (「自動」はギガビット イーサネットに常に使用する必要があります)。 一方がある特定の値に配線 (たとえば、100 Mbps 全二重) なら反対側は同じに設定 する必要があります。 両側がオート ネゴシエーションのために設定されればが、ランダム 切断がまだ発生すれば、それは 100 Mbps 全二重に両側を接続するよいトラブルシューティング の手順です。 これは問題のソースとして自動認証の問題を除去します。

すべてのこれらは、ファイアウォール タイムアウト設定が容易にアクセス可能である可能性はほとんどない必ずしもファイアウォールのプロシージャに気づかないかもしれないのでおよびあってもおそらく最も解決しにくいです。

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)